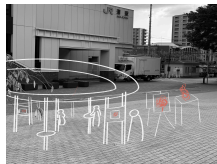


# クロッシングウェイ Crossing Way



プロジェクトのコンセプトを  
現実の街並みに落とし込んだドローイング

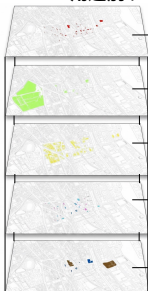
## ミュージアムロードプロジェクト概要

王子公園から瀧駅・岩屋駅、そして兵庫県立美術館へと続く三つの区間は、それぞれ異なる都市風景と雰囲気を持っている。本プロジェクトは、これらの通りが持つ多様な表情を、アート展示・歩行体験によって有機的につなぐ都市型アートプロジェクトである。

移動を単なる動線としてではなく、滞在・観察・参加へと広がった連続的な体験として再構築し、ミュージアムロードの文化的・アイデンティティと歩行環境を高めることを目指す。

各プロジェクトは、通りの文脈を踏まえ、道と人、視線とアーが交差し、新たな都市体験が生まれるシーンを提案する。

## 用途別リサーチ



RESTAURANTS

GREEN SPACES

HOUSING

BUSINESS  
COMMERCIAL

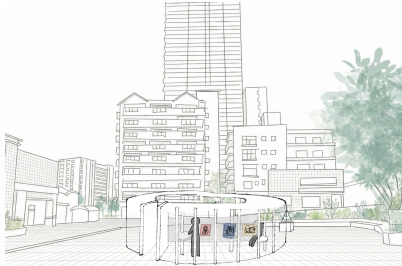
SCHOOLS  
HOSPITALS

## ミュージアムロード 利用環境分析

調査の結果、ミュージアムロード周辺には 兵庫県立美術館、王子公園・動物園、マンションや戸建て住宅など、多様な文化資源と居住環境が集中しており、潜在的な来訪人口が十分に存在することが分かった。

しかし、周辺環境に対して飲食店やカフェなどの商業施設が非常に少なく、来訪者が気軽に滞在できる場所が不足している点が課題として浮かび上がった。

この分析を踏まえ、本プロジェクトは今後のミュージアムロードが自然に来訪者・観光客を呼び込み、多様なアートプロジェクトを通じて滞在・消費・文化体験が広がる新たな施設環境を整えることを目指している。



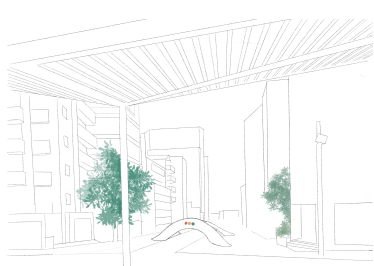
**Terrace Platform**  
テラスプラットフォーム

広場に設置される彫刻兼ブリッジ構造物。

段差のない水平面で構成され、誰でも気軽に滞在できる。

形状そのものがパブリックアートとして機能するようデザイン。

一部には透明な壁面を採用し、内部空間が見えるようにすることで、構造内部を活かした展示演出も可能としている。



**Overlook Crossing**  
オーバーラッククロッシング

駅前で都市の景観を見渡せる展望型デザイン歩道橋。

信号機や案内機能を組み込み、構造そのものがアートオブジェとして機能。

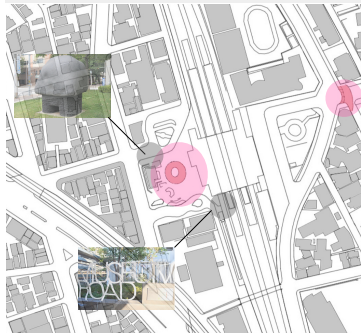
移動だけでなく「滞在する交差点」をつくるプロジェクト。

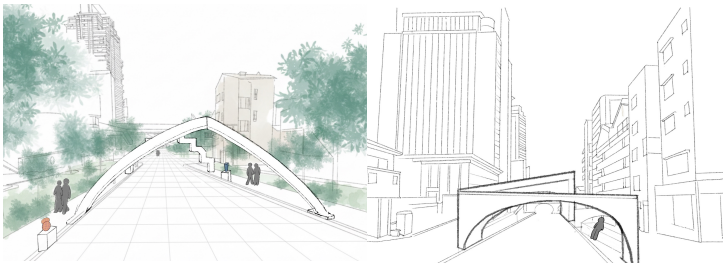
本プロジェクトは、地域に新たな流れを生み出し、持続的な文化成長の土台を形成することを旨とする。

単なる空間整備ではなく、今後の多様なプログラムや運営モデルを柔軟に受け入れる構造を備えることで、長期的な発展性を確保する。

これにより、日常の動線と文化体験が自然に広がり、周辺施設との連携も強化され、より大きな回遊性が期待される。

こうした変化は、地域全体の文化的活力を高め、長期的な都市魅力の向上へとつながる。



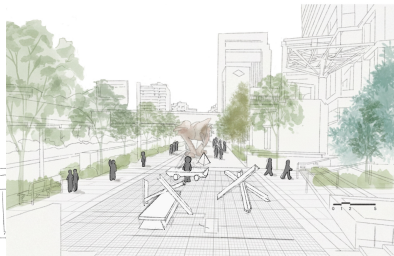


## Arch Link アーチリンク

アーチ形の構造物によって、異なる通りの雰囲気をつなぐ。につなぐ空間。歩行の流れを自然につなぎアートの要素で場所のアイデンティティを強化。街路間の「スムーズなトランジション」を生み出す装置。

## Crossing Archway クロッシングアーチウェイ

シグザグ状のアーチが連なり、幅の変化する歩行・休憩空間を形成。壁・床・アーチを活かして絵画展示や座れるスペース、小さな休憩エリアが自然に生まれる構成。歩くことと滞在が調和する街路のリズムをつくるプロジェクト。



## Bench Field ベンチフィールド

ミュージアムロードの既存アート作品と調和するようデザインされたアートベンチシステム。ベンチ自体が造形要素となり、作品と一体で「展示シーン」を形成。人々が自然に滞在し、作品と関わる事ができる休憩+アート体験スペース。

